

飛鳥宮跡の活用における四つの視点と、それに基づく活用の展開を以下のように設定する

### 1) 活用の視点と展開イメージ

前提条件	活用の視点	活用の展開
遺跡の保存 歴史的風土・景観の保全	①見る場としての活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 遺構の表示等による飛鳥宮跡の「見える化」</li> <li>● 解説サイン等の拡充</li> <li>● 周辺整備との連携による視点場の整備</li> </ul>
	②学ぶ場としての活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 遺跡ツーリズムの展開</li> <li>● わかりやすい情報の提供・発信</li> <li>● 飛鳥宮跡について学べる拠点施設の検討</li> </ul>
	③体感する場としての活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● VR・AR等により往時の飛鳥宮を体験</li> <li>● 「エデュテイメント」の展開</li> <li>● 歴史的風土景観の保全及び活用</li> </ul>
	④交流する場としての活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● イベントや協働作業を通じた交流の促進</li> <li>● 周辺遺跡・施設等との周遊利用の促進</li> <li>● 書籍の発行やインターネットを通じた情報発信</li> <li>● ホスピタリティの向上</li> </ul>

- 飛鳥宮跡への来訪者として、「子ども・若者」「国内旅行者」「外国人（中国・韓国）」「外国人（その他）」が想定できる。今後メニューの詳細を検討する際には、それらのターゲットを念頭において内容の検討を行うものとする。

## 4 活用・整備のイメージ

### 2) 活用のメニュー（案）

活用の視点	活用のメニュー（案）	参照P.
①見る場としての活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 遺構の表示等による飛鳥宮跡の「見える化」               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宮の北東隅、南門付近に塀を復元し、位置や大きさを明示</li> <li>・ 往時の建物がイメージでき、イベント等にも活用可能な仮設物を遺構の上に設置</li> <li>・ 対象地の公有化、発掘調査の進捗に合わせて、イベント等にも活用可能な「庭」(広場空間)を整備</li> <li>・ 「宮殿復元プロジェクト」の展開</li> </ul> </li> <li>□ 解説サイン等の拡充               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宮跡の内外に、歴史の解説や案内、発掘や地下遺構の様子、万葉古歌や記紀の記述等を記載した解説板を設置</li> </ul> </li> <li>□ 周辺整備との連携による双方向の視点場の整備</li> </ul>	<p>32</p> <p>33</p> <p>34</p> <p>35</p>
②学ぶ場としての活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 遺跡ツーリズムの展開               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発掘調査の現地説明会、見学会・体験会など、本物を見て、ふれる機会の提供</li> </ul> </li> <li>■ わかりやすい情報の提供・発信               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「明日香の歴史展示」や「飛鳥女史紀行」のストーリーの具体化による、人物を中心に据えた歴史解説を展開</li> </ul> </li> <li>□ 飛鳥宮跡について学べる拠点施設の検討               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 万葉文化館、役場等既存施設の活用</li> <li>・ 儀式、祭祀、習俗、衣装、食事などの考証</li> </ul> </li> </ul>	<p>28</p> <p>24</p>

## 4 活用・整備のイメージ

### 2) 活用のメニュー（案）

活用の視点	活用のメニュー（案）	参照P.
③体感する場としての活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ VR・AR等により往時の飛鳥宮を体感               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ VR・AR等のデジタル技術を活用して、往時の飛鳥宮の風景や人々の営みを体感</li> <li>・ その場所でしかできないゲームや、歴史の問題を解きながら周遊するアプリ等の開発</li> <li>・ アプリの改良・開発によるコンテンツの拡充</li> </ul> </li> <li>■ 「エデュテイメント」の展開               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遊びながら学べる展示やアクティビティの開発</li> <li>・ 往時の儀式や祭祀等の再現、古代衣装試着体験、古代食体験</li> </ul> </li> <li>□ 歴史的風土・景観の保全及び活用               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遠景を活かすとともに、近景との調和に配慮した修景</li> <li>・ 景観を解説するコンテンツの開発</li> </ul> </li> </ul>	<p>29</p> <p>30</p> <p>13</p>
④交流する場としての活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ イベントや協働作業を通じた交流の促進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 往時の建物がイメージでき、イベント等にも活用可能な仮設物を遺構の上に設置【再掲】</li> <li>・ 「宮殿復元プロジェクト」の展開【再掲】など参加型イベントの開催</li> <li>・ 往時の儀式や祭祀等の再現、古代衣装試着体験、古代食体験【再掲】</li> <li>・ 既存イベントの会場の一つとしての活用</li> </ul> </li> <li>□ 周辺遺跡・施設等との周遊利用の促進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周遊性を高めるための統一的な案内サイン、歩道の整備</li> <li>・ 飛鳥京跡苑池への動線の整備</li> <li>・ 「明日香の歴史展示」や「飛鳥女史紀行」の周遊ルートの具体化</li> </ul> </li> <li>■ 書籍の発行やインターネットを通じた情報発信</li> <li>■ ホスピタリティーの向上               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティアガイド等の人材育成</li> <li>・ インバウンドへの対応</li> <li>・ 宿泊機能の強化、おいしい料理の提供</li> </ul> </li> </ul>	<p>33</p> <p>34</p> <p>35</p> <p>26</p>